

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | オフィスアワー |
|------------------------------------|--|----------|------------------------------------|----------------|---------------------------|----------|
| 後藤 由紀、柴田英治、大谷喜美江 | 1年次前期 | 選択 | 2 | 30 | 講義 | 巻末掲載 |
| 授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法 | 産業保健・産業看護の歴史をひもとき、現状を概観するとともに、将来を展望する。また、産業保健・産業看護の展開のためのシステム、ネットワークづくり、職場におけるヘルスプロモーション、職業性疾患・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割、メンタルヘルスケアと産業看護職の役割、労働災害防止対策における産業看護職の役割、産業看護職の倫理、国際的にみた産業保健・産業看護活動、産業看護管理、産業看護教育等について関連する文献を検索し、まとめて学生によるプレゼンテーションと討議を行う。 学生が主体的に参加し、教員と議論することで学びを深める討議形式で展開する。 課題に対するフィードバック方法/授業時間内に学生とのディスカッションを通して検討する。 | | | | | |
| 授業の位置づけ | 本大学院のディプロマ・ポリシーの④の達成に寄与している。 | | | | | |
| 到達目標 (履修者が到達すべき目標) | ①産業看護の本質を理解し、基本的な知識・技術を習得することができる。 ②事業者・労働者への産業看護職の支援のあり方や産業看護職に必要なコンピテンシーについて考究することができる。 ③産業看護のあるべき姿と現実のギャップを埋めるための方策について、自らの考えを構築することができる。 | | | | | |
| 時間外学習に必要な内容・時間 | 事前にテーマについて教科書、講義で紹介する関連書籍・雑誌を読んで、自身の疑問点や意見を整理しておく。(120分) 事後は授業での討議内容について振り返り、さらに学びを深める。(30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 産業保健・産業看護とは | 後藤、大谷、柴田 | 第2回 産業保健の展開方法 | 後藤、大谷、柴田 | 第3回 産業保健の歴史 | 後藤、大谷、柴田 |
| | 第4回 産業保健・産業看護の展開に必要な法的知識 | 柴田、後藤、大谷 | 第5回 産業保健・産業看護の展開のためのシステム、ネットワークづくり | 柴田、後藤、大谷 | 第6回 職場における健康診断・健康相談・健康づくり | 大谷、後藤、柴田 |
| | 第7回 職業性疾患・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割① | 柴田、後藤、大谷 | 第8回 職業性疾患・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割② | 柴田、後藤、大谷 | 第9回 労働災害防止対策における産業看護職の役割 | 柴田、後藤、大谷 |
| | 第10回 メンタルヘルスケアと産業看護職の役割① | 大谷、後藤、柴田 | 第11回 メンタルヘルスケアと産業看護職の役割② | 大谷、後藤、柴田 | 第12回 産業保健・看護専門職の倫理 | 後藤、大谷、柴田 |
| | 第13回 国際的にみた産業保健・産業看護活動 | 後藤、大谷、柴田 | 第14回 産業看護管理 | 大谷、後藤、柴田 | 第15回 産業看護教育 | 後藤、大谷、柴田 |
| 評価方法 評価基準 | 授業のプレゼンテーション内容・参加態度 50%、 レポート 50% | | | | | |
| 教科書 | 河野啓子, 産業看護学第2版 2023年度版, 日本看護協会出版会 | | 参考書等 | 適宜、雑誌や書籍を提示する。 | | |